

はじめに

不登校から大学受験。

この言葉を聞くと、多くの人は「やっぱり難しいのでは…」と思う
かもしれません。

学校に通えていない分、勉強時間が足りない。模試の偏差値も出ない。

そんな状況から「MARCH 合格」というと、夢物語のように感じる
でしょう。

でも実際には、**戦略を間違えなければ3か月の集中でも十分に勝負
できます。**

大切なのは「全部やろうとしない」こと。

たとえば中華料理屋さんは何でも作れますが、
その分準備や仕込みに時間がかかります。

対してラーメン屋さんは一品に特化しているから短期間でも本気で

勝負できる。

受験も同じで、ある程度絞れば「ラーメン屋戦略」で MARCH に挑めるのです。

この小冊子では、

- ・ 不登校生が直面する進路の悲惨な現実
- ・ 就職・収入データに基づく現実的な大学選びの視点
- ・ MARCH やその次のランク校に 3 か月で合格する戦略

を、できるだけ具体的にお伝えします。

「勉強が遅れているから無理」と諦める必要はありません。

むしろ、最短ルートを選べるからこそ、不登校からでも逆転は可能なのです。

著者自身もこの戦略を活用して早稲田大学に合格しました。

そして、毎年多くの生徒を早慶や MARCH といった大学に送り出しています。

疑問や疑念もあると思いますが、

読み進むうちに希望が変わってくることでしょう。

では「おわりに」でお会いしましょう。

2 極化する不登校生の進路

不登校から高校に進むと、

多くは通信制高校を選びます。

ここで大きな特徴が見えてきます。

それは、**進路が2極化する**ということ。

一方では、ある程度のレベルの大学に進学したり、

意志を持って専門学校に進む生徒がいます。

もう一方では、

特に目標を持たずに在籍だけして「とりあえず卒業」を目指す生徒

がいます。

数字で見るとその違いははっきりします。

通信制高校の「進路未定率」は3割とされています。

多くの子は進学でもなく、就職でもなく、卒業後に行き先が決ま
っていない。

これが現実です。

(参考：文部科学省 通信制高校に関する調査 P15)

また、最近通信制高校からFランク大学（入試でほぼ不合格にな
らない大学）への推薦入学が増加中。

一見すると「大学に行けたから安心」に思えるかもしれませんが、
実際には就職活動で苦労することが多い。

ブランド力や就職実績の差が、卒業後の収入や働き方に直結してし
まうからです。

ここで大切なのは、「進路未定」や「安易なFラン進学」の流れに飲み込まれないこと。

むしろ、不登校だからこそ「自分で選ぶ」「戦略を立てる」意識が求められます。

不登校の経験はマイナスではありません。

ただ流されるのか、自分で道を描くのか。

その選択が、大きな分かれ道になります。

3 大学による就職・収入格差

「どこの大学に行っても同じ」

——そう思っている人も少なくありません。

しかし現実には、大学ごとに就職のしやすさや収入は大きく違います。

たとえば、「[有名企業 400 社への就職率](#)」を見ると、

MARCH や関関同立だけでなく、成蹊大学や芝浦工業大学（4工大の一角）といった大学も上位に食い込んでいます。

一方、Fランク大学になると状況はまったく異なります。

Fランク大学の進路未定率は2割前後。

さらに留年もあります。

内定が出ても中小企業中心。

結果として、年収や仕事内容にも大きな差が生まれます。

そうすると、過酷な環境で転職を繰り返す悪循環にはまってしまうことも珍しくありません。

就職や収入の格差は、シビアで現実的な問題です。

[\(参考：大学別平均収入 日経転職版\)](#)

現実的に多くの方は「ありのまま」には受容できないでしょう。

もちろん、転職を繰り返しながら頭角をあらわす人もいます。

筆者の友人には元不登校で転職を繰り返した後に成功した人が2人います。

とはいえ、誰もができることではないようにも見えました。

18歳時点ではそれなりの大学を目指すのが現実的であるように思います。

いずれにせよたった3か月の集中でMARCHクラスに手が届け

ば、

その後のキャリアで大きな差をつけられるということ。

大学は「通過点」であると同時に、その後の人生のスタートラインを形作る場です。

だからこそ、戦略的に「狙う大学」を選ぶことが何より大切なのです。

4 都会や地方の進学校の落とし穴：意外に彼らが苦戦するわけ

一見すると、進学校に通って真面目に勉強している生徒の方が圧倒的に有利に見えます。

しかし実際には、**都会でも地方でも意外な落とし穴があるのです。**

都会の進学校の場合

都会の進学校では、難関国公立大を目指す生徒が多く、授業や塾で5教科7科目を幅広く勉強します。

ところが、その結果として「消化不良」になるケースが目立ちます。

進度が早い上に科目数が多すぎて、一つひとつを得点源にできないまま受験本番を迎えてしまうのです。

真面目に努力していても、入試問題で確実に点数を取れる力にまで仕上がらないのです。

そこにつけいるスキがあります。

もちろん進学校の上位層にはかないませんが、彼らに勝てなくても
MARCH には入れるのです。

地方の進学校の場合

一方、地方の進学校は「まずは地元の国立大へ」という進路指導が
一般的です。

そのため、早い段階から私大対策を十分にしないまま過ごしてしま
い、

いざ MARCH や関関同立といった私大を受けようとする
と、
専用対策で後れを取るケースが多いのです。

基本的に地方国立を第一志望にする場合、
MARCH や関関同立にはほぼ受かりません。

競技の種目が違うからです。

地方進学校はほぼ国公立主義ですので彼らとは勝負にならないので
す。

つまり、MARCHを目指す場合は日本の大半の地域の高校生がライバルではない。

また、仮に地方国立大に進学したとしても、その後の就職は地元志向が強く、

地銀や農協、地方公務員といった安定職に落ち着くパターンが多いのが現実です。

もちろん立派な道ではありますが、人口が減少し衰退する地方経済において、

将来的な展望が乏しいことも否めません。

不登校からの逆転の視点

ここで大切なのは、不登校だからこそ「戦略」を持てるという点です。

都会の進学校のように科目を広げすぎて消化不良になる必要もなく、

地方の進学校のように国公立至上主義の進路指導に縛られることもありません。

英語と現代文に絞るなど、明確な選択と集中を行うことで、真面目に勉強してきた彼らにすら勝てる可能性が十分にあるのです。

5 戦力を集中すれば勝てる：中華料理屋になるかラーメン屋になるか

受験勉強をしていると、どうしても「あれもやらなきゃ」「これもやらなきゃ」と欲張ってしまいます。英語、国語、数学、日本史、世界史、理科……。

まるで何でもそろえる**中華料理屋**のように、品数を増やそうとするのです。

でも、想像してみてください。

中華料理屋は品数が多い分、仕込みや準備に時間がかかり、

どの料理もそこそこ止まりになりがちです。

一方で、ラーメン屋は「ラーメン一本」に絞ることで、その一杯に全力を注ぎます。

だから短期間でもお客さんに勝負できる味を出せるのです。

受験も同じです。

多くの進学校の生徒は中華料理屋のように多科目をやり、結局どれも中途半端になってしまう。

地方の進学校の生徒も国立大対策で幅広く手を広げ、私大の入試に特化できずに苦戦します。

ここでチャンスがあるのが、不登校から再スタートを切る場合です。

中華料理屋を目指す必要はありません。

ラーメン屋やタンタン麺屋受験という戦略であれば、

3か月でも MARCH に十分に手が届きます。

真面目に勉強してきた生徒に勝つには、努力量を競う必要はありません。

ゲーム時間では勝てると思いますが、勉強の努力量では勝てないでしょう。

大切なのは、勝てる一点に集中する勇気です。

6 MARCH を英語と現代文で攻略する

MARCH 合格に必要なのは「全部をやる」ことではありません。

むしろ、英語と現代文に徹底的に絞ることが、最短での合格への王道ルートです。

実際、MARCH や成城・成蹊・武蔵といった「次ランク」の有力私大は、

英語と現代文だけで受験できる入試方式を数多く用意しています。

しかもこれらの大学は、有名企業 400 社就職率でも上位に入り、卒業後の進路実績も悪くありません。

* 成蹊大学は大学別平均収入でも上位 20 校に入っています。

つまり、ブランド力だけではなく「就職に強い」という実利の面でも狙う価値があるのです。

では、短期間でどう戦うか。

- **英語はリーディング一本に絞る。**文法やリスニングに手を広げず、読解演習に集中することで最速で得点力を上げられます。
- **現代文は解法パターンを徹底する。**感覚ではなく「論理で読む」練習を繰り返せば、3 か月でも十分に伸ばせます。

さらに、もし「学部にもこだわりたい」という場合は、社会科で**政治経済**を加えるのも一つの戦略。

政治経済は理解が中心で、日本史や世界史のように膨大な暗記が必

要な科目ではありません。古文も同じくです。

これらは短期間でも仕上げやすく、現代文と親和性が高いのが特徴です。

要するに――

「英語と現代文だけで戦う」

「どうしても必要なら政治経済と古文をプラスする」

このシンプルな組み合わせこそ、

3か月で逆転合格を狙うベストプランです。

ちなみに社会をやる場合は日本史や世界史を3か月で仕上げることはほぼ不可能です。

しかし、政治経済であれば十分に可能。

進学校の生徒は普通は日本史や世界史を選びますが不利な選択でしょう。

(慶應や東大などは政治経済では受験できないのが要因)

このように「優等生の弱点」をつく戦略を持つことにより合格可能性を大幅に増やすことができるのです。

具体的に優等生の弱点をつける大学・学部は以下の通り。

英語と国語で受験する場合は下記。

法政大学 T 日程 (全学部入試)、中央大学国際経営学部、中央大学
国際情報学部、
成蹊大学、成城大学、武蔵大学。

政治経済や古文を加える場合は下記。

青山学院大学、法政大学、中央大学、学習院大学、立命館大学、関
西大学、武蔵大学。

7 理系の場合は文系よりも有利：4工大や日東駒専の強み

ここまで文系の「英語＋現代文特化戦略」を中心にお話ししてきましたが、

実は理系の進路は文系以上に有利です。

その理由はシンプルで、就職の強さにあります。

工学系・理系の学部は、専門性を持っているだけで需要が高く、大学ランクが MARCH より下であっても大手メーカーやインフラ企業、IT 系などへの就職が十分可能です。

たとえば「4 工大」（芝浦工業大学・東京電機大学・東京都市大学・工学院大学）。

知名度では MARCH に劣るように思えるかもしれませんが、有名企業 400 社就職率ランキングでは MARCH に匹敵する、あるいはそれ以上の結果を出すこともあります。

また、日東駒専やその下のクラスでも理工学部・情報系は就職実績が良好で、

卒業後の安定度は高いのが実情です。

日本大学の生産工学部などは偏差値は30代ですが就職などを見ると日本一コスパが良い学部と言われていたりします。

つまり、もしあなたが理系科目に抵抗がなければ、
理系で勝負する方が大学のランクに対して得られる就職メリットが大きいと言えます。

理系は分野によっては大学院に行くのが普通だったりしますので、最終学歴は逆転することもできます。

文系にこだわらず、理系も含めて柔軟に進路を考えることが、将来を広げる大きな鍵になるのです。

ちなみに理系学部でも文系科目で受験する方式も増えています。

合格という点ではありがたいことですね。

*入学後どうするかは私も裏は取れておりませんが、大学側も計算

はあるのでしょうか。

おわりに

不登校からの大学受験。

途中で止まった時間に不安を感じたり、周りと比べて焦ったりすることもあるでしょう。

でも実は、その経験こそが「戦略を持って学ぶ力」に変わります。

みんなと同じように5科目7科目をこなす必要はありません。

むしろ、それをしないからこそ勝てるのです。

同じことをしたら勝てないのが道理でしょう。

英語と現代文に絞る、あるいは政治経済や古文をプラスする。

理系なら英語と数学で勝負する。

このように「やらないこと」を決めるだけで、たった3か月でも逆

転合格は可能になります。

そして大切なのは、合格そのものよりも、その後の人生です。

MARCH や成蹊・成蹊・武蔵、あるいは4工大に入ること、

就職の選択肢が大きく広がります。

「どこに入るか」がその後の働き方や収入、暮らし方を大きく左右
します。

不登校は決してマイナスではありません。

自分のペースで、自分の道を選ぶための準備期間。

その経験をバネにして、集中して取り組めば、

真面目に勉強してきた進学校の生徒にだって勝てます。

受験はゴールではなく、新しい人生のスタート。

3か月の集中が、未来を大きく変える第一歩になるはず。

私もこの方法で道を切り開きましたし、

多くの子が大学生活を謳歌し一流企業に就職していきました。

共に明るい未来を作っていきましょう。

募集

高2～浪人生で受験するという方を募集します。

勉強を直接教えてほしいというコース

勉強は自分でやり進捗管理をしてほしいというコース

親御さん向けコーチングコース

説明会、個別面談を実施しております。関心のある方は下記までご連絡くださいませ。件名は「個別面談希望」でお願いします。

(メール) futoukou123@gmail.com